

8章 総合問題8

問題

【1】

解答

- (1) 人間関係において雲行きが怪しくなると、自然とバリケードを築きたくなる
(2) オ
(3) 不要となる段落 b 1 番目にくる段落 e 4 番目にくる段落 d
(4) ④

【下線部④の訳】 スポック博士が、それを見てもっと話したいと思ったなんてとても言えないはずだ

- (5) b

解説

- (1) ○ a social situation 「人間関係」
○ 「社会的関係」では意味が通らない。
○ social の名詞形の society は、「人間同士の結びつき」を表すことから考える。
○ threatening = having a hostile or deliberately frightening quality or manner
○ urge = a strong desire or impulse
○ barricade = any barrier or obstruction
- (4) 《下線部④》
○ could not have done の not のところに hardly が入った形。
○ この hardly は、形は準否定語だが、婉曲的・皮肉で使われる用法で日本語で言う
と「とても～とは言えない」に当たる。実質的には「全く～ない」と同じと考えて
もよい。
cf. That report that he is always dozing off in the office is *hardly* surprising.
(彼が会社で居眠りばかりしているという報告には全く驚かない。)
○ be encouraged (to give a lecture)
○ encourage A to ... 「A を…する気にさせる」

1) 主題をつかむ

この文章は8つの段落で成り立っている。最初の段落は、人には子どものころから、自分を遮る物の後ろにいるほうが本能的に安心感を覚える習性がある、という説明から始まっている。心理学的な意味とともに説明される「防御」行動とそれが年齢とともに変化するありさまは、実は、いわゆるボディ・ランゲージの古典的な例である。しかし、ボディ・ランゲージというキーワードは、文章中で空欄になっている第4段落の冒頭で、初めて表れる。

一般的に、文章の主題は導入部の終わりに表れる。それはほとんどの場合、第1段落の終わりを指す。しかし、ここではその原則が当てはまらず、東大の入試においては通用し

ないことがよくある。

- 2) ディスコース・マーカーと指示（語）の機能、そして一貫性を生み出すそのほかの手段を理解する

設問（2）は第1段落か第2段落のどこかに一文を挿入する問題である。正解は**オ**である。第2段落の3つの文は、物の後ろに隠れる傾向は子どもの成長とともに弱まっていくことを述べている。ティーンエイジャーの行動の説明は、子どもの行動と大人の行動の説明の間に入れるのが自然である。as, still, by the time, now という時間に関する表現は、求められる社会的行動という点から、年をとるとともに起こる変化を映し出すものである。however という語は、大人に対してよりよい行動が求められることを強調している。

- 3) 文章全体の一貫性を認識する

設問（3）は欠けている4つの段落を正しい順序に並べ、1番目と4番目に来る段落、そして、5つの選択肢のうち不要な段落を答える問題である。

恣意的に並べられた5つの段落同士を比べ、空欄の前後の文章とのつながりも考えなければならぬ。ここでは、first, second, third のような列挙を表す「ディスコース・マーカー」は見られない。

最初に来る段落は**e**である。直前の段落では、物の後ろに隠れる行動は子どもが成長するにつれて減っていくが、ティーンエイジャーの間ではボディ・ランゲージにその形跡が残るということが説明されている。そして最後に、大人はそれから脱することが求められていると述べられている。**e**の段落の最初の語は adults で、最初の文では、大人に求められていることが述べられている。

2番目の段落は**a**である。この段落の初めには such situations という表現がある。これは、前の段落**e**の最後に述べられているストレスの多い状況を指す表現である。このsuch は指示表現であり、すでに述べられたことを指す。

3番目に入る段落は**c**である。この段落では、ボディ・ランゲージは基本的に無意識的なものだが、それを意識するだけでなくコントロールもできるように訓練できると述べられている。段落の最後では、心理学者や政治家など特定の職業について触れられている。

4番目に来る段落は**d**である。この段落の始まりは、直前の段落**c**の終わりの部分とつながっているが、パフォーマンス・アート（舞台芸術）に話題が移っている。also train という表現から、この段落が**c**の段落のあとにこななければならないことがわかる。

不要となる段落は**b**である。この文の内容は事実だが、この文章で述べられていることの一部ではない。この記述はあまりにも内容が広すぎる。筆者は、非言語コミュニケーション全体ではなく、その特定の形について論じているのである。

- 4) 趣旨から外れない

設問（4）は文脈に合わない文を取り除く問題である。不要な文は④で、内容は事実かもしれないが、そうであっても少し皮肉的である。スポック博士は小児科医で、子育てに関する著書がベストセラーになった。のちに彼は、ベトナム戦争にあからさまに反対した。しかし、その話題はここにはふさわしくない。この文は、スポック博士がその人生のさまざまな局面で、アメリカ社会において果たした役割を知らない人たちにとっては、とても戸惑うものかもしれない。

5) 主題を見極める

設問(5)は第7・8段落の趣旨を説明する問題である。

a ボディー・ランゲージの文化的変化

この話題はここでは取り上げられていない。

b 体を交差させるしぐさにおける巧妙さの程度

これが正解である。人が服を整えたりするときのように、体を交差させるしぐさがほとんど気づかれない場合もあれば、スポック博士が警察官と対面したときのように明らかにわかることもある。

c ボディー・ランゲージにおける性差

性差については第7段落で触れられているが、主題ではない。

d ボディー・ランゲージを認識することの難しさ

筆者はボディー・ランゲージは認識しにくいとは言っていない。そのわかりやすさはさまざまであると述べているだけである。

全訳

人は、何らかの防御の下にいる方がより安全だと感じる傾向がある。①人間関係において雲行きが怪しくなると、自然とバリケードを築きたくなる。幼い子供は、見知らぬ人に出くわした時には、母親の体の陰に隠れることができる。都合よく母親が利用できないと、椅子や何か他の家具が代用されるであろう。防御の下で安全にしていながら、もっと近寄って見るべきかどうかを決めるまで、子供はその見知らぬ人を観察することができる。もしその見知らぬ人が近寄ってきたら、顔を隠すこともできる。もしその見知らぬ人がこういった恐怖心の兆候を無視して更に近づこうとすれば悲鳴を上げて逃げるほかない。

こういった態度は無論、子供が成長するにつれ減少する。オ これは、十代の若者が、純粹に、あるいは冗談で当惑しているような時に、顔を手や紙で隠す際に、依然として見ることができる。だが、大人になる頃には、思春期のはにかみと今では言われる、子供のように隠れたがる性癖は、成長して脱するものと期待される。

e 大人は、親戚、友人、上司、同僚、顧客それに依頼主と接していて巻き込まれる様々な社会的交わりにおいて、勇気と自信を示すものであると思われる。それにもかかわらず、こういった社会的状況の多くは、子供の頃感じたのと同じ根源的な不安感を内包している。批判されたり、審査されたり、あるいはひょっとして拒絶されたりするかもしれないという状況においてはとりわけ、守ってくれるような防御の必要性を感じる。あらたまった状況であればあるほど、そして当事者が攻撃的で馴染みがなければならないほど、遭遇の瞬間はますますストレスのたまる戦々恐々としたものとなる。

a こういった状況では、ボディー・ランゲージが、母親のスカートや家具の後ろに隠れることの代わりとなる。最も一般的な防御のしるしは、いわゆる肉体交差である。肉体交差とは、防御のかんぬきを形作るために、手や腕を体の前で組んだり合わせることを言い、それを車のバンパーにたとえる人もいる。こういった仕草は、人込みを押しわけたり、東京のラッシュ・アワーに電車に乗る時にするのとは違い、人々を物理的に排除するわけではないので、通常それほど目立たない。

c ボディー・ランゲージは、潜在意識の下に行なわれるコミュニケーションの一形態であ

る。たいていの人は、肉体交差もしくはその他の自己防衛的な姿勢をとったことを覚えてさえないであろう。無論、ボディ・ランゲージをはっきり意識するよう訓練を受けることもできる。ボディ・ランゲージを解説したり制御したりすることは、心理学者のみならず、多くの他の職種の人々にとっても大切である。政治家、会社経営者、人前で話すことが成功するのに必要となる人々は、ボディ・ランゲージを操る訓練を、時として受けていたりする。

d 俳優、喜劇俳優、人前での他のパフォーマーもボディー・ランゲージを習得するよう訓練する。初期の舞台芸術では、芝居がかった身振りだらけで、型にはまった大げさな動きやポーズが標準であったが、映画の発展とともにリアリズムへの要望が高まった。この分野で著名なのはリー・ストラスパークがかかわった「メソッド演技法」の学校であり、その学校の生徒には映画界で最も有名で尊敬を集めた名士が何人かいる。しかし、これは芸術に關する事柄であり、ボディー・ランゲージの科学的研究の対象ではない。

非言語コミュニケーションの研究者は、抑圧されているものの依然として明白な肉体交差の1つの型に注目した。それは、高い地位にある人々が、あらたまった催事に到着し、主催者の所に行くために開けた遮蔽物のない空間を横切らなければならない時に見られるものだ。肉体交差により巧妙に不安をほぐすべく、男性なら、シャツの袖口を引っ張って出したり腕時計の位置を調整したりするかもしれない。女性なら、前腕に載せたハンドバッグの位置を調整するかもしれない。衣服を直すふうを装ったこのような些細な防御の仕草は、通例(少なくとも意識のレベルでは)気づかれずに済む。

肉体交差は、会議のテーブルに合わせた両手を行儀良く置くのと同じくらい目につかないものかもしれないが、防御の感情は、行儀良くかつ寛いで見られたいという願望よりも時として強くなることがある。すると、両腕は胸の前でガッチリ組まれることになる。もしその人が座っているのであれば、脚も組まれるかもしれない。目は細められ、上下の唇はピッチリ閉じられる。その昔、1960年代のベトナム戦争中に、有力な反戦活動家スボック博士が警察官の集会で行なった講演で撮られた1枚の写真があった。聴衆の中にいた警察官は皆、まるで「一応聴いてはいるが、お前の言い分を受け容れるとは思うなよ。」とでも言わんばかりに腕と脚を組んでいた。スボック博士が、それを見てもっと話したいと思ったなんてとても言えなかったはずだ。

<不要な一文>

- ④ 子育てに関するスボック博士のベストセラー本によって、多くの警官達が育てられたかもしれない。

<不要な選択肢>

- b 非言語コミュニケーションは発話、文書、手話を使わないいかなるコミュニケーション手段をも含む。時間と空間の利用でさえ非言語コミュニケーションの一部と考えられる。

【2】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

一般に、我々は既に知っていることや、十分にまたは身に付くほどには決して知りそうに

ないことを、聞かされたいとは思わない。我々は既にその題材について知り尽くしている、あるいは逆にあまりに全く知らないがために今後も知らないままであり続けそうな題材の場合には書物を読まない。我々はいずれにせよ舌の先までは出かかっているが、書物の手助けなしには思い通りに言うことのできないことを言うのに役立つ書物を読むのだ。我々はその著者の主張を理解はしているのである。もっともその著者がそれを言葉に著す以前には、その内容を明確には述べられなかったであろうが。

注

- ℓ. 2 ◇ ever = at any time
 ◇ to good effect = to *one's* advantage
- ℓ. 4 ◇ help A (to) … 「A が…するのを手伝う」
 ◇ things (that) we are on the verge of saying anyway …
 ○ things は後続の 2 つの say の目的語 (= Object)
 ○ on the verge [edge, brink] of = very near to
 ○ anyway = in any possible way
 ○ ここでは具体的には「書物を読まなくても」の意味
- ℓ. 5 ◇ not quite [部分否定]
 ◇ without help
 ○ ここでは具体的には「書物を読まなければ」の意味
 ◇ could : 仮定法 / before ~ が条件
 ◇ 「彼がそれを言葉に著す以前であったならば…」
- ℓ. 6 ◇ formulate = express clearly and exactly
 < express (something) in a formula 「～を公式で表す；公式化する」
 ○ 原義「型 (= form) にはめる」
 ◇ put A into words 「A を言葉にして示す」
 cf. put = express (something) in words

【3】

解答

- (1) a (2) ア fear イ for (3) e (4) c
 (5) 悪いのは自分に違いないと思い込む (6) d (7) a
 (8) a (9) c

解説

- (1) ℓ. 2 delayed maturity を参照。
 (2) ア ○ for *fear* that … 「…するといけないから」
 ○ in case
 ① so as to provide for the possibility of something happening
 cf. Take an umbrella with you in case it rains.
 (雨が降った場合に備えて、傘を持って行け。)
 ② if

cf. In case it rains, do not expect me.

(雨が降った場合には、私は来ないものと思え。)

イ「私のためにとってある」と考える。

- (3) ○ approach to something = a thing resembling something
○ it = kindness
- (4) ○ air = an impression
○ respectability 「世間体」
＜ respectable 「(人が) いかかわしい過去を持っていない；まともな；(世間的に) ちゃんとした」
※とりたてて「立派な」ということではない
- (5) ○ one = I
○ be to blame = be at fault; be responsible
- (6) ○ in proportion = without exaggerating; sensibly
○ proportion = balance
a 「よりよい方法で」
○ style = a manner
b 「より大きな度量で」
○ measure = a degree or extent
c 「より関心なく」
d 「より偏見なく」
○ prejudice = a distorted view, a preconceived idea
e 「より巧みに」
- (7) 「すべての英雄たちは必然的に男性であった。」
○ automatically = necessarily; inevitably
a 「本来」
○ by nature = naturally
b 「(他に仲間なく) ひとりで」
○ by *oneself* = alone
c 「(他にたよらず) 独力で」
d 「機械的に；機械仕掛けで」
- (8) ○ in a *position* to ... = able to ...
○ they could afford to be (kinder than women)
- (9) ○ on *guard* against = cautious with; prepared against

全訳

私は人生を開始するのがまったく遅かった。それは私の責任ではなかった。少しでも優しさというものが私の周囲にあったなら、私は人よりも遅れをとった自分の成長に悩みはしなかっただろう。もし未来への不安があればどこまでに私の身の内にしみ込まれていなかったなら、私はさらにまだ悪いことがこの先に待っているのではないかと心配して、孤独で望みもしなかった少女時代を卒業して出て行くことに怖じけづくこともなかっただろう。しかし、

優しさなど少しもなかった。それに一番近いものは、母が彼女への様々な求愛者たちと共にドライブする大型高級車の後部座席に座ることを許されていたことくらいであった。これは実際には優しさでも何でもなかった。私が一緒に連れて行かれたのは、隣近所に対して見苦しくない雰囲気醸し出すためであった。前部座席の2人は振り返って私を見ることも、私に対してわずかばかりの関心を払うことも決してなく、私の方も彼らを完全に無視していた。私は何時間も、何百マイルも大型高級車の後部座席に座り、際限なく続く空想物語を作っていた。

恐るべきほどに進みの遅い子供時代。劣等感にさいなまれ、決してかけられることのない優しい言葉を求めてもがく、終わりのない年月。⑥悪いのは自分に違いないと思ひ込む、自責の念による苦悩。切望して止まない人からの優しさが、そのようなものには無関心な他人に与えられてしまう口惜しさ。私の子供時代よりも悪い将来はあり得ただろうか。また、そんな子供時代から怖くて抜け出せなくするようなことは（私の体験したことより）他に何があり得ただろうか。

後年、私がもう少し釣合いの取れた物の見方ができるようになった時、私は、何もわかっておらず、誰からも相手にされない、異常に傷つきやすい子供であるという、あのおぞましい暗黒の孤独——想像し得る最悪の運命——に再び陥ることを常に恐れた。

母は私を女であるという理由で嫌悪し、また軽蔑した。彼女から私は、男とは優秀で、自由で、恵まれた、光輝く、強い種族であるという観念を学んだ。私の取るに足らない青春期の冒険的行為と小心な試みとがこれを確信させた。英雄と言え男に決まっていた。男は女よりも優しかった。彼らにはそうするだけの余裕があったからである。彼らはまた凶暴で、何をしてくさかわからない、危険な生き物でもあった。私は常に彼らに対して警戒していなければならなかった。

注

- ℓ. 1 ◇ if ... had ... would ... have ... 「仮定法過去完了」
※ ℓ. 2 も同様
- ℓ. 2 ◇ delay = make late; postpone
◇ apprehension = worry or fear that something unpleasant may happen
- ℓ. 3 ◇ instill = gradually but firmly establish in someone's mind 「(思想・感情・行動などを) 徐々に教え込む」
◇ solitary 「孤独」
- ℓ. 5 ◇ the big cars (that) my mother drove about in
◇ about = around
- ℓ. 7 ◇ take along 「～を連れ沿う」
◇ along = with others
- ℓ. 8 ◇ take no notice of = pay no attention to
- ℓ. 11 ◇ interminable = endless or apparently endless
- ℓ. 12 ◇ torment = great pain in mind or body
◇ self-accusation < accuse *oneself*
- ℓ. 13 ◇ longed-for < long for = want very much

- ◇ affection = love < affect = impress; influence; move
- ◇ bestow A on B = give A to B, especially to show how much they are respected
- ℓ. 14 ◇ indifferent = uninterested
- ◇ What future could have been worse (than my childhood)?
 ≡ No future could have been worse (than my childhood).
 (修辞疑問 (= Rhetorical Question))
- ℓ. 16 ◇ later on = afterwards
- ℓ. 17 ◇ ghastly = (of an event) very frightening and unpleasant, because it involves pain, death, etc.
- ◇ isolation = the process or fact of isolating or being isolated
 < isolate = place (something) apart or alone
- ◇ uncomprehending = unable to comprehend < comprehend = understand
- ℓ. 18 ◇ fate = a destiny; doom
- ℓ. 19 ◇ despise = hate or feel disgusted by
- ℓ. 20 ◇ breed = a sort; a kind; a race; species
- ◇ adolescent[ædɔːləsnt] = between childhood and adulthood
- ℓ. 21 ◇ timid = easily frightened; shy
- ◇ confirm = established the truth or correct of; state with assurance that something is true
- ℓ. 22 ◇ masculine = of men
- ◇ fierce = violent and angry
- ℓ. 23 ◇ unpredictable = that can be predicted

【4】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

もしあなたが優柔不斷で、それについて何かをしようと思っているならば、優柔不斷は必ずしも無知や頭の回転の鈍さによるものではないという事実、即座にほっとしてもよい。

①それどころか逆に、単純明快な決断に到達し、その決断に基づいて行動することが困難となる結果がもたらされるのは、多くの場合、あまりにも多くの事柄を考え、あまりにも多くの疑念を考慮するからである。知能が高ければ高いほど、決断を下す前に素早く数多くの要素を考慮する傾向が強くなるかもしれない。もし知能が低ければ、ほとんど何の苦労も感じないだろう。なぜなら起こり得る様々な結果について考える能力を持たないと思われるからだ。

②優柔不斷な人々の苦労とは、極めて重大な問題に対して熟考の上で与えるかもしれない真剣な考慮を、多数の些細で取るに足らない事柄に対しても適用する性癖を身につけてしまったということかもしれない。

注

- ℓ. 1 ◇ indecisive = having inability to make decisions; hesitating

- ℓ. 2 ◇ due to = because of; owing to
 ◇ on the contrary 「それどころか逆に」
- ℓ. 3 ◇ it ~ that ... 《強調構文》
- ℓ. 4 ◇ result in = have (something) as a consequence; bring about
 ◇ a simple decision
 ○ reach と act on の共通目的語の右方転移
 ◇ the more ..., the more ~ 「...すればするほど, その分だけ~」
 ○ the は副詞
- ℓ. 5 ◇ if ... were ... would ... wouldn't ... 《仮定法》
- ℓ. 6 ◇ feeble-minded = unintelligent; 名詞 + ~ ed 「~を持った」
 < feeble = weak
- ℓ. 7 ◇ a variety of = many different; a diversity of
 ◇ consequence = a result; an effect
 ◇ Your difficulty: この Your はℓ. 1 の if you are indecisive を受けているので「優柔不断な人々」とする。
- ℓ. 8 ◇ applying to a multitude of little, unimportant things the same serious consideration
 ○ apply to B A < apply A to B = put A onto B
 ○ apply = make use of
 ○ A = the same serious consideration ...
 ○ B = a multitude of little, unimportant things
 ○ a multitude of = a large number of
 ○ the same serious consideration (that) you might advisedly ...
- ℓ. 9 ◇ might: 仮定法 / to vital matters が条件
 ◇ advisedly = deliberately; after due consideration
 cf. *advisably* [文修飾] 「(〜が) 得策だ」
 You may *advisably* look for a better English teacher.
 (あなた方はもっと良い英語の教師を探すのが得策かもしれない。)
 ○ 本問は *advisedly* であって *advisably* は用いられていないので「重要な問題に対して向けるのが望ましいのと同様な」は誤訳。

【5】

解答

- (1) Monkeys have moved out from the temples where they were once protected to occupy the streets of Asian cities.
- (2) Monkeys can cause trouble/problems by stealing fruit and vegetables from farms and bothering both the local people and the tourists.
- (3) Biologists call creatures that receive benefits from their host without having any effect on that host's survival commensals.

- (4) Religious respect for monkeys goes back to the legend of the Hindu monkey god Hanuman, who helped to reunite the Indian prince Rama with his wife.
- (5) In some cities the populations of monkeys grow exponentially, but in other cities populations are stabilized by disease and **b** limited food supplies. There are also varying levels of aggression.
- (6) Like some other species, the rhesus, the long-tailed macaque and many other monkeys are thriving in urban/city areas.
- (7) **a**

Script

CD 1 29~31

Moving out from the temples where they were once sacred — or at least protected — monkeys have spread out to occupy the streets of Asian cities from India to Hong Kong to Indonesia. City dwellers sometimes enjoy their presence, but monkeys can also be a lot of trouble. They invade the fields of farmers, stealing fruit and vegetables. They beg for food — and steal it when they are able to. They bother both the local people and the tourists. In one city in India, no less than 95 percent of those surveyed said they had been bothered by monkeys, and some said they had been bitten. In one case, a young child fell to his death when attacked on a roof by a group of monkeys.

Monkeys have been welcomed in temples for many centuries and still receive religious respect, as can be seen in the photo of a rhesus monkey riding on the shoulder of a holy man. Often, however, cities grew up around the temples, and the monkeys could no longer go to the forest even if they wanted to. Accustomed over generations to people feeding them, they naturally moved out into the cities. Biologists call such creatures commensals, which means literally “those who share the table.” A commensal is an organism that receives a benefit from its host without having any effect on that host’s survival. In this case humans are the hosts and food is the benefit.

Religious respect for monkeys goes back to the legend of Hanuman, the monkey god in Hindu culture. When Sita, the wife of the Indian prince Rama, was kidnapped and taken to the island of Lankah, Hanuman called for his troop of monkeys to form a bridge from India

20 to Lankah. Then his monkeys battled the forces of evil — and won. Rama and his wife were reunited. Because of Hanuman, monkeys have received special respect from Hindus.

In some cities the populations of monkeys grow exponentially. In other cities, such as in Nepal, populations are stable. They are controlled by disease and limited food supplies. The level of aggression varies widely, too. In the town of Lop Buri in Thailand, they search
25 for food in the trash cans at convenience stores and even steal from the hands of the customers. At Sangeh in Bali, monkeys will leap on people, stealing their handbags or cameras, even snatch people's glasses. Having an adult macaque jump on you is no joke. A full -grown male can weigh forty pounds. At other places in Bali, however, the monkeys are not so aggressive.

30 Various types of animals have been able to adapt themselves to life in human cities. Domestic animals such as cats and dogs often return to a semiwild existence where they live on the edges of human society. Pigeons thrive in many of the world's cities and crows have become an increasingly common feature of Tokyo in recent years. Though their forest habitat may be disappearing, the rhesus, the long-tailed macaque and many other monkeys
35 are thriving in urban areas. Young monkeys playing on the power lines in the sunset are now a part of the city landscape in many places. [526 words]

注

- ℓ. 1 ◇ moving out from the temples … [分詞構文 (主語は monkeys)]
◇ sacred 「神聖な」
- ℓ. 2 ◇ spread out 「広がる」
◇ occupy ～ 「～を占拠する」
- ℓ. 3 ◇ city dweller 「都会人；都市の住人」
◇ enjoy their presence 「彼ら (=サルたち) がいるのを楽しむ」
- ℓ. 4 ◇ invade ～ 「～を侵略する」
◇ beg for ～ 「～を乞う；求める」
- ℓ. 5 ◇ when they are able to 「それができる時に → チャンスがあれば」
- ℓ. 6 ◇ no less than ～ 「～もの多くの」
◇ those surveyed 「調査を受けた人々」
- ℓ. 7 ◇ bitten < bite 「～を噛む」

- ◇ fall to *one's* death 「落下して死亡する [cf. starve to death (餓死する)]」
- ℓ. 10 ◇ as can be seen in ~ 「～に見られるように」
- ◇ rhesus monkey 「アカゲザル (インド産の短尾種のサル)」
- ℓ. 12 ◇ accustomed (over generations) to ~ 「(何世代にも渡って)～に慣れているので [分詞構文]」
- ℓ. 14 ◇ literally 「文字通りに；誇張なしに；正確に」
- ◇ organism 「有機体；生物」
- ℓ. 15 ◇ have an effect on ~ 「～に影響を与える」
- ℓ. 18 ◇ kidnap ~ 「～を誘拐する」
- ℓ. 19 ◇ troop 「(人・サルなどの) 群れ；一隊；軍隊」
- ℓ. 20 ◇ battle ~ 「～と戦う」
- ℓ. 21 ◇ be reunited 「再会する」
- ℓ. 23 ◇ stable 「一定の；安定した」
- ◇ limited food supplies 「限られた食糧の供給 → 得られる食糧が限られていること」
- ℓ. 24 ◇ the level of aggression varies widely 「攻撃性のレベルは様々である」
- ℓ. 25 ◇ trash can 「ゴミ箱」
- ℓ. 26 ◇ leap on ~ 「～に飛びつく；飛びかかる」
- ℓ. 27 ◇ snatch ~ 「～を引ったくる」
- ◇ have ~ jump on you 「～に飛びかかれる」
- ◇ macaque 「マカク (サル的一种)」
- ◇ no joke 「笑い事ではない；重大なことだ」
- ℓ. 28 ◇ full-grown male 「成熟したオス」
- ◇ weigh ~ 「重さが～である」
- ℓ. 30 ◇ adapt *oneself* to ~ 「～に適応する；順応する」
- ℓ. 31 ◇ domestic animals 「人に慣れた動物；ペット；家畜」
- ℓ. 32 ◇ live on the edges of ~ 「～のへり [縁；端] で暮らす」
- ◇ thrive 「繁栄する；(動植物が) よく育つ；はびこる」
- ℓ. 33 ◇ become an increasingly common feature of ~ 「次第に～のよくみられる特徴になってくる」
- ℓ. 34 ◇ habitat 「生息地」
- ℓ. 35 ◇ urban 「都市の；都会の」
- ◇ power line 「電線」
- ℓ. 36 ◇ landscape 「景色；風景」

全訳

かつては自分たちが神聖なものとされていた——あるいは、少なくとも守られていた——寺院を出て、サルたちはインド、香港、インドネシアに至るアジア各都市の通りを占拠するほどになってきている。都市住民は、彼らの存在を楽しく思うこともあるが、サルたちは大きな問題になることもある。農家の畑に入り込んで、果物や野菜を盗む。食物をねだり、スキがあれば盗んでいく。サルたちは地元の人々ばかりでなく、観光客をも悩ませている。イ

ンドのある都市では、調査を受けたうちの95%もの人サル被害に遭ったことがあり、噛まれたことがあると回答した人もいた。中には、小さな子供が屋根の上でサルの集団に襲われて落下し、死亡したケースもあった。

サルは何世紀もの間寺院で歓迎され、聖人の肩に乗ったアカゲザルの写真にも見られるように、今でも宗教的に敬われている。しかし多くの場合、寺院の周りに都市が発達し、サルたちは森に行きたくてももはや行けなくなってしまった。何世代にも渡り人間からエサをもらうことに慣れているため、サルたちは当然、街に出てきた。生物学者によると、このような生物は共生動物と呼ばれ、これは文字通りには「食卓を共にする者」という意味である。共生動物は、宿主の生存には何も影響を及ぼさず、その宿主から恩恵を受ける生物である。この場合、人間が宿主であり、食物が恩恵に当たる。

サルに対する宗教的敬意は、ハヌマーンというヒンドゥー文化のサル神の伝説にさかのぼる。インドの王子ラーマの妻シータが誘拐されランカー島へ連れて行かれた時、ハヌマーンは自分のサルの一隊を呼んで、インドからランカーまで橋を造った。そして、サルたちは悪の軍と戦い、勝ったのだ。こうしてラーマと彼の妻は再会した。ハヌマーンのおかげで、サルはヒンドゥー教徒から特別な敬意が払われてきたのである。

サルの数が急激に増加している都市もある。また、ネパールの都市のように、サルの数が一定のところもある。その数は病気や限られた食物供給量によって抑制されている。サルの攻撃性も様々である。タイのロブブリという町では、サルたちが食物を求めてコンビニエンス・ストアのゴミ箱をあさったり、さらには客の手から奪い取ったりする。バリのサンゲエでは、サルが人に飛びかかり、ハンドバッグやカメラを盗んだり、メガネまでも引ったくる。大人のマカクに飛びかかれるというのは笑い事ではない。成長したオスのサルの体重は40ポンドもある。が、バリの他の場所では、サルはそれほど攻撃的ではない。

様々な種類の動物が、人間の住む都会の生活に適応してきた。猫や犬のような飼育動物も、よく半野生状態に戻って人間社会のへりで暮らすこともある。ハトは世界中の多くの都市に繁殖しているし、カラスも東京では近年急速によく見かけるようになってきている。森の中の生息場所は消えつつあるが、アカゲザル、尾長ザルやその他多くのサルが都市部で繁殖している。今では多くの場所で、日没時に電線の上で遊んでいる子ザルたちが都会の風景の一部になっている。

【6】

解答

9:00 (n)	10:30 (a, d, g, k)	3:00 (b, d, h, i, j)
4:40 (d, e, f)	4:55 (m)	5:00 (l)

全訳

タバタ・ユージが驚いたのは、今いるオフィスのニューヨーク支社のアメリカ人女性が、彼の銀行の東京支社の日本人女性ほどは一生懸命に働かないということであった。女性たちは、9時に仕事を始めなくてはならないことになっているのだが、ロッカールームを出るのは、9時をかなり過ぎてからなのだ。ある日、上司がユージに、ロッカールームに行って女性たちにそこを出て仕事を始めるように伝えるよう命じた。

ユージは、仕事を始める時間はとうに過ぎていて、彼女たちは今すぐロッカールームを出て仕事を始めなくてはならないという内容を、正しい英語ではどう言うのかわからなかった。彼は女性のロッカールームのドアのところへ行って、大声で「9時、9時」と言ってみた。女性たちは理解して笑いながら出てきた。

10時30分にブレイクつまり休憩があり、女性たちは15分間仕事をやめて、コーヒーを飲んだり、お手洗いにいたり、私用の電話をしたりして、10時45分を過ぎて、やっと仕事を始めるのだ。

正午に、1時まで1時間の昼休みがある。

3時に、午後の休憩がある。この休憩時間は30分間続く。再び女性たちは全員仕事をやめ、お手洗いにいき、コーヒーとドーナツを買いに行き、雑誌を読み、友達とおしゃべりをして、3時30分過ぎてやっと仕事を始めるのだ。

女性たちは5時まで働かなくてはならないことにはなっているが、ユージに最もショックを与えたのは、女性たちが4時40分から帰宅の準備を始めるということだった。4時40分になると彼女たちは大急ぎでお手洗いに直行し、服を着がえて、髪の毛を整え、化粧をして、4時55分にデスクに戻って来るのだ。次に彼女たちはいすに座り、レースのスタートの合図を待つ競走馬のように待機するのである。そして5時になると彼女らは全員地下鉄へと突進するのだ。

注

ℓ. 2 ◇ be supposed to … 最重要

- ① *to be expected to behave in a particular way, especially according to a rule, an agreement, or someone in authority*

cf. You are not supposed to play baseball here.

(ここでは野球をしてはいけないことになっている。)

- ② *to be generally expected or considered to have a particular quality or skill*

cf. Z-kai Todai Master Course is supposed to be the best educational institution in Tokyo.

(Z会東大マスターコースは東京で最高の教育機関と考えられている。)

- ③ *to be expected or intended to happen in a particular way or have a particular result*

cf. Today was supposed to have been sunny, but it's rainy.

(今日は晴れると思っていたが、雨だ。)

ℓ. 3 ◇ out of = away from the inside; away from

◇ locker room = a room with lockers in a large building such as a factory or school, especially one where *one* may change *one's* clothes.

◇ quite a bit = quite a lot 盲点

cf. come into quite a bit of money (かなりのお金が入る)

quite a bit cheaper (かなり安い)

ℓ. 4 ◇ boss = *one* who directs the work of others; a manager

ℓ. 7 ◇ immediately = at once; without delay

- ℓ. 8 ◇ in a loud voice 「大声で」
 ※ 「声」には in がつく。
cf. *in* a husky voice (ハスキーな声で)
in a solemn tone (重々しい調子で)
in a whisper (ひそひそ声で)
- ℓ. 9 ◇ they came out laughing
 ○ laughing 《主格補語》
- ℓ. 10 ◇ break = a brief stop; a time for rest or change
cf. Let's continue our discussion after a short *break*.
 (ちょっと休憩してから我々の討論を続けることにしよう。)
- ◇ or = that is; in other words
- ℓ. 11 ◇ go to the toilet (英) 「お手洗いにいく」
 ○ 米語では toilet は a bowl with a seat and lid connected to a plumbing system, used for the disposal of body waste つまり「便器」を意味するので「お手洗いにいく」は go to the bathroom などと言う。
- ◇ personal = private
- ℓ. 13 ◇ coffee break = a short period of time when *one* stops working to eat or drink something
- ◇ last = continue
- ℓ. 14 ◇ donut = doughnut; sweet dough formed into a small cake, usually round with a hole in the middle, and fried in a deep container of liquid fat
- ℓ. 15 ◇ chat = talk informally in a light, familiar manner
- ℓ. 16 ◇ shock = ① *cause to feel astonishment, horror, etc.* ② give an electric shock to
- ℓ. 17 ◇ rush = go with unusual speed
 ◇ change clothes 《相互複数》
- ℓ. 18 ◇ fix *one's* hair = brush and comb *one's* hair
 ○ fix = put in order; put right; prepare
- ℓ. 19 ◇ racehorse = a horse that is trained to run in races
 ◇ start = the act or an instance of being a competitor in a race or a member of a starting lineup in a game

添削課題

解答例

First of all, crows can survive in the city because they can easily find food in the garbage we throw away. Secondly, crows have no natural enemies in the city. They are strong birds that are seldom killed by other creatures. Thirdly, even when we try some way to get rid of the crows, they are clever enough to figure out our tricks. [63 words]

別解

I think that the main reason crows can easily survive in the city is that people throw away so much food. The scraps, leftovers and unsold food thrown away by homes, shops and restaurants provide plenty for crows to eat. They can also easily find places to nest on the roofs of buildings or in trees in city parks. [59 words]

解説

○The content of the two model answers comes from answers written by students. As far as content is concerned, common knowledge and common sense are sufficient to answer the question. Everyone has seen crows picking through garbage on the street, so the availability of this food source is one obvious reason they can survive in the city. If you know more about how crows live, such as their nesting habits or ways of communicating or working together, it would be good to include more than one point.

○If you give more than one reason, it is helpful to include expressions that help make transitions from one point to the next clear.

In model answer no. 1, the points are enumerated with these expressions:

First of all, Secondly, Thirdly,

○In the second model answer, only two points are made. What the writer thinks is the main reason is stated in the first sentence. The second sentence explains this point in more detail. The second, less important point is marked with the word *also*.

○It is important to consider whether nouns are countable or uncountable. Although making this kind of mistake does not usually make it hard to understand what you mean, it can lead to additional mistakes, such as in subject-verb agreement.

Garbage, trash and *rubbish* are not countable.

The word *food* is usually used as an uncountable noun.

The homes of birds such as crows are called *nests*, not *houses*. (Some birds, however, live in *birdhouses*.)